

平成 26 年度 事業 計画 書

社会福祉法人はりま福祉会
せいりょう園

基本理念

人間の社会は、一人ひとりの限りある命がつながって次の世代に引継ぎ、連続と歴史が続いて来ました。『命の限り』と向き合いながら、バトンタッチを繰り返して、社会の進歩と発展を実現してきたのです。人生と社会はリレーに似た営みであり、死の瞬間にバトンタッチが完了し、老いの過程はその助走です。

人間以外の動物は、子に遺伝子を伝えて生殖機能を失った後は、長くは生きていません。数ある動物の中で人間だけが、遺伝子では伝わらない思想や人間性・社会性を育み伝えて、社会を発展させて来たのです。

人が老いて『要介護になり死を迎える』過程は、思想や人間性を伝える為の非常に重要な時間だという事を心に留め、地域包括ケアシステムの一端を担い、次の世代に社会を引継ぐ事を主眼として、全ての事業を展開します。

(1) 平成 26 年度 事業 方針

要介護になり認知症になったお年寄りが、『一個の社会人』として人生を締め括る営みを支える為に、『住居を提供』し『介護を提供』します。

認知症の人が現す何事にも懸命に『チャレンジする姿勢』は、知的障害者やダウン症の人など多様な人々を包摂して、地域社会が持続し発展する為の最も重要な要件を現しています。

老いて要介護になった人を受容れる社会であればこそ、先天的な障害のある人を包摂する社会が実現します。

要介護や認知症の高齢者が次の世代にバトンを渡し、主役として人生を締め括る場に居合わず喜びが、介護の醍醐味です。

- ① 住居の提供：特養・ケアハウス・グループホーム・サービス付き高齢者住宅と全ての居住空間を通して、社会人として、生活者として、自然の一員として、人生を締め括る『終の棲家』に相応しい環境を、主役の『感性と感覚』を尊重して整えます。
- ② 介護の提供：老いて心身の機能が低下する過程に寄り添い、充実感のある暮らしの中で主役として人生を締め括って頂きたいと願います。お年寄りの感性と感覚に添い、主役の決める暮らしを尊重し、『適度な距離と適切なタイミング』を測りながら、ご家族や隣人と協働して、適切な介護を提供します。

(2) 平成26年度業務指針

- 1 認知症の人の介護：認知症の人が現すチャレンジする姿勢に学び、地域の人やご家族と協働して、主役に相応しい暮らしを支えます。造形・陶芸・音楽・書道などの試みは感性や感覚を豊かにして、不安と折合う力を養います。造形教室で現れる認知症状の違いは個別処遇の目安となり、自彊術体操で自らの自然治癒力を高め、安心ホルモンの分泌を促す自彊術療法には、ご家族や地域の人々の参加を呼びかけます。
- 2 ケアプランとリスクマネジメント：主役として自らの暮らしを決める主体性を尊重し、ご本人にとって不合理なリスクは排除しながら、生活者として社会の一員として引受けるべき妥当なリスクとその対処をケアプランで明らかにします。
- 3 食事と健康管理：食べる事は生きる為の原点です。そして、食べる事が出来なくなっても、調理の音や匂い、食事の気配は「生」を実感する瞬間です。生活空間の中にいる喜びを感じながら人生を締め括って欲しいと願い、調理を行います。口腔内の保清に努め、自然の摂理に沿った生命活動を支えて最期まで寄り添います。
- 4 サービスの向上に向けて：安全で良好な生活環境の確保に向けて、痰の吸引、感染症対策、身体拘束・行動制限の廃止、等々について常に職務を点検し、変更・改善に努めます。海外研修・外部研修会・内部研修会・各種会議を通じて、職員相互に切磋琢磨し、専門職としての技術を磨き、職業人としての資質を高めます。
- 5 事故への対応：日々機能が低下する暮らしの中で、不測の事故は起り得る事を前提として、迅速かつ適切な対応と丁寧な説明を旨として対応します。3名の第三者委員を加えた苦情調整委員会を毎月開催して、適切な対応と業務の改善に努めます。
- 6 防災避難対策：火災・地震・水害など災害時には自力で避難できない人が大半であり、火災を想定して年に2回、初期消火と避難誘導の訓練を行います。地震や津波・台風など大規模災害も想定し、『福祉避難所』としての役割も考慮して地域と連携した避難訓練を企画します。非常食を3日分以上に備蓄して、年に1回は非常食を食し、防災意識の向上に努めます。
- 7 行事：年初の初詣でから年末の餅つきまで、季節に応じた行事を取り入れて自然の変化を感じ、ご家族との接点を広げます。夏祭りは、地域のボランティアグループや障害者団体等の協力を得て、未来の共生社会を目指す試みとして、工夫を重ねます。

(3) 平成26年度個別事業計画

1 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の運営

特養もご利用者自身の住居であり、自らの生命力を存分に発揮して、最期まで生活課題に向き合って懸命に生きる姿を支えます。身体拘束や行動制限は行わず、地域社会の一員として、生活の主役として、自然界の一員として、人生の仕上げの時を迎える暮らしに寄り添います。

2 指定短期入所生活介護事業（ショートステイ）の運営

人生の最終章を自宅で過ごしたいと願って計画的に利用される場合と、看取りの場として利用するご利用者が居られます。ショートステイの利用が施設入所につながる場合も多く、長期利用の希望が増えています。主治医や訪問看護師・ケアマネジャーも含めて多職種のスタッフが関与して、夫々の固有の関係性を広げて、自宅であれ施設であれ、人生を締め括るまで寄り添う事業を目指します。

3 指定通所介護事業（デイサービスセンター）の運営

自らの居宅で最期まで生活する為には、短期的な目先の活力ではなく、『心の自立』を支える感性や感覚に働き掛ける工夫が重要です。自然の変化や他者の視線を感じ取って、生活空間の中で自らの居場所を探る力を養い、老いを受容して人生の仕上げに備えて頂きたいと願い、くつろぎの場で調理を行います。

ショートステイと併用する人も多く、兼務する職員を増やして土・日も含めて毎日運営します。

認知症対応の小規模な共用型デイサービス2か所（各定員3名）と、利用者の特性に応じて利用を分担し合い、地域社会との関係性を広げます。また、児童や障害児者との接点も模索したいと考えます。

4 指定訪問介護事業（ホームヘルプステーション）の運営

重度の要介護者が、地域社会の一員として自らの居宅で人生を締め括る暮らしには、訪問介護事業の充実が欠かせません。多職種が連携して取り組むサービス提供体制の中心的な職種であり、調理や清掃が中心となって創り出す生活空間の中で、生活援助技術・身体介護技術・看取り介護技術等の習得に努めます。介護保険対象から外れる生活支援サービスへの対応にも努めて、人生の仕上げの暮らしを最期まで支えます。

登録型ヘルパーの増員を図りながら、サービス付き高齢者住宅『リバティかこがわ』『自愛の家さくら』の「安否確認・生活相談サービス」の提供

を担い、24時間・365日を通して生活支援ができるように努めます。

5 指定訪問看護事業（訪問看護ステーション）の運営

地域社会の一員として居宅で最期まで生活する高齢者にとって、医療・看護面での支援と助言が重要であり、かかりつけ医と連携して訪問看護師が、ご本人のみならずご家族や介護職をも支えます。医療的な処置を受けながら人生の仕上げを迎える高齢者が多くなる中で、自然の摂理に沿った営みに潜む「QOLや尊厳」を大切にして緩和ケアに努め、豊かで幸福な想いの溢れる生活の場で、人生の仕上げの時を迎えて欲しいと願い、訪問看護に努めます。

登録型訪問看護師等の増員を図り、365日・24時間稼働する法人事業全体の看護部門として 特養・デイサービス・小規模多機能事業等に配置する看護職員のステーションの役割も担い、多機能型事業展開の一環としての看護機能を発揮する仕組みを探ります。

6 指定居宅介護支援事業（介護相談室・ケアプラン作成事業）の運営

要介護の高齢者が、地域社会の一員として最期まで居宅で生活することを目指してケアプランを作り、家族や関係者との調整に当たります。

ご本人が主役として人生を締め括る過程は、ご家族にとっても、地域の人々にとっても、介護職にとっても、貴重な経験の宝庫です。ご本人にとっては人生で最後の自己実現であり、社会的な役割を果たす最後の姿です。次世代の人にとって、人生を締め括る姿を見送る経験は、思想や信仰心につながる貴重な『原体験』であり、出産や子育てを支える思想を育み、未来に希望をつなぎます。それが地域包括ケアシステムの原点です。

登録型ケアマネジャーの増員を図り、質の良い介護機器や介護用品の紹介や販売に努め、ケアハウスや高齢者住宅等の情報を集積して、介護の情報発信基地を目指します。

7 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営

認知症の人は、病気や障害を受容し変身しながら、持てる力の全てを使って懸命に生きるチャレンジャーです。一般的な社会常識には合わない行動が増えてきますが、長年の生活で培った感性と経験則で他者との距離を測り、居場所を探り、他者を信頼して関係性を築く、社会生活の適者です。

知性も理性も体力も低下する中で、生きている事を実感し暮らしを支えて

いる経験則と感性や感覚に驚きます。『人格崩壊の過程にいる人』としてではなく『ベストを尽くして懸命に生きている人』として観るとき、その生き様から多くの事柄を学び取ることができます。介護現場の観察力と発信力を高め、運営推進会議を通して、地域社会の中でも認知症の人から多くの学びが在る事を伝えて行きます。

2つのグループホームには、夫婦で入居できる部屋が有る事を周知し、定員3人の共用型デイサービスの利用者を募り、認知症の人が小さな生活空間の中で自らの生活感覚を発揮する暮らしを通じて、地域社会の一員としての暮らしを維持し、認知症の人の居場所を地域に広げる途を探ります。

8 指定小規模多機能型居宅介護事業『輝きの家ながすな』の運営

高齢者が例え一人暮らしであっても、自らの居宅で最期を迎えるまでの生活を、総合的・包括的に支えるケアシステムとして、新たに創設された事業であり、地域社会の一員として人生を締め括る姿を、訪問介護を中心に多機能性を発揮して、ご家族やご友人とも協働して支えます。

地域社会の中の何処かで世代を超えた出会いがあり、最期を迎えるお年寄りとの接点が生じて、次の世代が社会を引継いでいく為の思想と社会性を育む事が出来るのです。地域の人々との接点と繋がりを広げる工夫を重ねます。

玄関前の廊下は、自動演奏ピアノの音が流れ、ホーム内のキッチンでは、『男性介護者の料理教室』を開きます。

運営推進会議を通して、認知症や要介護のお年寄りとの関わりから、地域の人々にも多くの学びが得られる事を伝えたい、と考えます。

9 軽費老人ホーム『ケアハウスせいりょう園』の運営

高齢期を迎えて、老いによる心身の機能低下や自らの最期を見据えて居住する生活空間として最適な環境でありたい、と願います。

重度の要介護となり小規模多機能型居宅介護事業に登録する入居者も増えています。デイサービスとホームヘルプと訪問看護を利用して最期を迎えたい、と希望する入居者も現われています。正にサービス付き高齢者住宅として機能しています。

要介護になっても自由度の高い生活の中で、自らの人生を締め括る場として選択される居住施設でありたい、と願います。2階キッチンでの調理が定着し、各階の食堂とともに2階のホールを食事や団欒の場として活用する途を探ります。

10 「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

平成3年より稼働している『リバティかこがわ』20室と、昨年秋に完成した『自愛の家さくら』24室は、要介護になっても、認知症になっても、小規模多機能型居宅介護や訪問介護・訪問看護などの介護サービスを利用して最期まで暮らし、次の世代に社会を引継ぐ役割と責任を果たす為に最適の、サービス付き高齢者住宅です。

バス・トイレ・キッチン、ご家族や介護者と生活を共有し、豊かな生活感覚を創り出す生活空間の必需品です。そして、適度な密度のコミュニティの中で他者と係わり、適度な距離と適切なタイミングで介護サービスを利用して、主役として豊かな気持ちで暮らしながら、人生の最終章を締め括って頂きたい、と願います。

11 せいりょう園老人介護・在宅介護支援センターの運営

相談・調整業務の経験が豊富な職員を配置し、『社会貢献事業』として、地域社会へ『老いと死の創造性』を伝え、様々な取り組みを探ります。

☆ 『自愛の家さくら・リバティかこがわ』入居者の「生活相談」の一端を担います。

☆ 『介護について語ろう会』を開きます。

☆ 入所待機者の個別の待機状況を把握し、多様な解決策を探ります。

☆ 『加古川認知症家族の会・元気会』の活動を支援します。

☆ 若年認知症の人の社会活動・生産活動を支援します。

☆ 障害者の就労の場を創造する事業を模索します。

☆ 男性介護者の為の介護教室や料理教室を開きます。

☆ 第三者委員を中心に苦情調整委員会を開きます。

☆ ボランティア活動の調整窓口を務めます。

☆ 職員の資質向上を意図した取り組みを企画します。

12 鍼灸マッサージ治療センターの運営

認知症や要介護になる惧れを感じているお年寄りには、心の内に生じてくる不安に対して折り合いをつけ、安心感や信頼感を生み出す心の拠所が必要です。マッサージや鍼・指圧は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安眠感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供しながら、地域の多くの皆様にも利用して戴きたいと願います。

13 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

車椅子のお年寄りや認知症の人がご家族とお茶を飲み談笑しています。地域の方が打合せの場として利用し、ご近所の人と職員が入り混じって昼食を摂り、コーヒーを飲んでいきます。エントランスには様々な情報を発信し交換できるスペースを設けて、様々な人々が何気なく触れ合える場を目指します。職員給食としても味と栄養価とボリュームに配慮し、近隣の人にも利用して頂けるように努めて、増収・増益を図ります。

14 地域交流事業について

ご利用者の自立と主体性を尊重し、ご家族や地域の人々との交流を深め、法人事業と介護業務への信頼性を高めることを目指して、以下の取組を企画し実施していきます。

- ① のびのびルーム：ご利用者の自主サークル活動・13時～
月：自彊術、火：映画、水：カラオケ、木：自彊術
場所：せいりょう園デイサービスホール
- ② 共生の会：シニア世代の勉強会・毎月第1月曜日18時30分～
- ③ 介護について語ろう会：毎月第4金曜日14時～
- ④ 機関紙『せいりょう園』の発行：月刊
- ⑤ 木野雅之ヴァイオリンリサイタル：5月予定
- ⑥ ロンドンアンサンブルコンサート：12月予定
- ⑦ せいりょう園陶芸教室：指導・喜多千景・中本万理恵、顧問・川西幹夫
：月3回日曜昼・月曜午後、陶芸室にて
：金曜午後、デイサービスホールにて
- ⑧ 仏教講話：市内のご住職持ち回り、毎月第1月曜日15時～
- ⑨ ピアノ教室：金曜日10時～藤城亜紀子先生のピアノ伴奏で歌う会
- ⑩ 自彊術療法：水曜日15時～佐藤鈴子奥伝師範の指導により、安心ホルモンの分泌を促す療法の実技指導、デイサービスホール
：日曜日10時～グループホームまどか
- ⑪ 音楽療法：水曜日14時～15時、築山佳奈子先生の指導で合唱・合奏を楽しみながら、リズム感覚の活性化を図る試み
- ⑫ 造形教室：金曜日10時～11時、喜多千景先生・中本万理恵先生の指導により小麦粉粘土を使って造形的な感覚の活性化を図る試み。「せいりょう園グループホーム」「グループホームまどか」の2カ所で実施
- ⑬ 書道教室：1・3火曜日13時～、土井清子先生の指導と近隣の皆様の参加を得て、一緒に練習しています

- ⑭ ボランティア活動の推進と募集：のびのびルームの世話、手芸、園芸、折り紙、書道、等々をお年寄りとご一緒に楽しむボランティアの方が、個人やグループとして多数ご参加くださっています。新たな方々の参加を歓迎します。
- ⑮ 街角コンサート：リバティかこがわ1階廊下に置いてある自動演奏ピアノを弾いて、『街角コンサート』を開いて頂ける方を募集します。玄関ドアを開放すれば、其処はバス亭です。バスを待つ人や道行く人を楽しませて下さい。何時でも、誰でも結構です。喫茶ラヴィックまでお申し出下さい。

15 その他事業

社会福祉法人の社会的使命を自覚し、地域社会で生き辛さを抱える人々を支援する事業を模索します。

- ・「自愛の家さくら」1階の3つのテナントには、地域医療や子育て・障害者支援につながる事業所の誘致を目指します。
- ・知的障害・精神障害・若年認知症の方々の社会活動を支援する事業を模索します。
- ・矯正施設を満了出所した人の生活を支援する途を探ります。